

緊急支援事業実施報告書

申請年月日	2006年 3月 9日	申請番号	2001 -
プロジェクト名	リベリア人道支援第3期		
実施事業名	グランド・ケープ・マウント州 難民・国内避難民帰還支援事業		
実施団体名	特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン		
実施責任者・連絡先	理事長 峯野龍弘	Tel: +81 3 3367 7252	
日本側担当者・連絡先	海外事業部緊急援助課 池田 満豊	Tel: +81 3 3367 7252	
現地担当者・連絡先	プログラム・オフィサー 伊藤 真理	Tel: +81 77 550594	
1.事業目的	戦争によって破壊された、難民、国内避難民等の帰還先コミュニティの生活環境、インフラを整備することにより、昨年10月より開始された国連機関などが支援する本格的な難民・避難民の自発的帰還及び再定住を支援、促進する。長じては、コミュニティ復興への基盤をつくることを目的とする。		
2.事業実施期間	2005年 4月 1日 ~ 2005年 9月 30日(6ヵ月間)		
参考(当初計画期間)	2005年 4月 1日 ~ 2005年 8月 31日(5ヵ月間)		
変動事由	現地での事業資機材(トタン)の調達遅延による作業工程調整。		
3.経費執行状況(円)	最終執行額(円)	当初事業費(円)	増減(円)
現地執行体制運営費	21,525,559円	24,309,877円	2,784,318円
執行体制設置・運営費	4,073,397円	5,312,945円	1,239,548円
現地拠点運営費	17,452,162円	18,996,932円	1,544,770円
直接事業費	38,526,622円	45,291,876円	6,765,254円
外部監査費	565,884円	660,000円	94,116円
合計	63,876,068円	70,261,753円	6,385,685円
自己財源	3,258,003円	0円	-3,258,003円
JPF財源	60,618,065円	70,261,753円	9,643,688円
※特記事項			
4.最終裨益状況(人)	最終裨益者	当初見込数	増減
	41,394人	60,400人	19,006人減
特記事項	裨益者数減少の主な理由は、①申請時には道路・支線道路の裨益者を両県の人口概数としたが、直接裨益をする支線道路の幹線上の2県19ヶ村及び幹線を離れた地域の人口の計(UNHCRの調査結果に含まれていないため幹線上のコミュニティの人口x2/3と推定)としたため、②当初の基礎調査時には井戸・トイレ各村の人口に関して概数をとっていたが、事業期間中に詳細な人口調査・世帯調査を行った結果、概算時よりも小さい人数となったため。井戸とトイレが敷設された事業地コミュニティでは、井戸の裨益人数がトイレの裨益者を包括するとみなし、井戸裨益者数が総裨益者数を代表している。また、総裨益者のうち少なくとも3,955人 ¹ は帰還者である。		

¹ 事業実施時の調査による。

事業区分	計画数値			補足事項
	計画数値	実績数値	増減	
井戸修復・設置	20 本	20 本	-	修復 3 本、設置 17 本
家族用トイレ設置	200 基	200 基	-	足場が丸で、補強の不必要な縦杭。
小学校修復	4 校	4 校	-	
支線道路の簡易修復	ポバ県 5 マイル、テウオー県 8 マイル	ポバ県 5 マイル、テウオー県 8 マイル	-	修復場所はティエニ(テウオー県)ーダンバラ(ポバ県)間のポバ県 5 マイル、テウオー県 8 マイル計 13 マイル(約 21 ㎞)の道路。
橋簡易修復	6 カ所	6 カ所	-	ポバ県 3 カ所、テウオー県 3 カ所

ポバ県とテウオー県において難民及び国内避難民の帰還・定住支援として、定住先のコミュニティにおいて井戸、衛生施設(トイレ)、橋、支線道路、小学校を建設・修復するための資機材を提供し、水・衛生インフラ整備、橋、支線道路、小学校の修復事業を実施した。本事業は、コミュニティや住民の事業への積極的な参加を促すことに重点を置き、住民側が労働力や砂や砂利などの資源を提供することで事業を実施したが、それらが入手不可能な地域ではワールド・ビジョン(WV)が提供した。

(1) 井戸修復・設置
支援対象地域の住民が中心となり、ポバ県 8 コミュニティに井戸 8 本を新設、2 コミュニティで井戸 2 本の修復を行なった。またテウオー県では、9 コミュニティで井戸 9 本を新設、1 コミュニティで井戸 1 本を修復した。

(2) 家族用トイレ設置
ポバ県 13 コミュニティ、テウオー県 6 コミュニティで、200 基分の家族用トイレの資材を配布し、トレーニングを経て、WV の指導のもと住民参加によって設置した。なお、トイレのデザインは各コミュニティで行ない、女性が使用する際の安全性、雨季対策、衛生面なども考慮した。

(3) 小学校修復
ポバ県 Varney Kalilu Elementary School (Boe-san)、Mono Gleh Public School (Mano Gleh)、テウオー県 Bobalor Public School (Bobalor)、Gondama Community School (Gondama)において、WV の土木エンジニアの指導により、コミュニティの大工や住民が修復作業を行なった。

(4) 橋簡易修復
WV の土木技術者の指導により、支援対象地域より選ばれた作業員がポバ県 3 カ所、テウオー県 3 カ所において丸太橋の簡易修復を行なった。

(5) 支線道路の簡易修復
WV の土木技術者の指導により、支援対象地域より選ばれた作業員がティエニ(テウオー県)、ダンバラ(ポバ県)間 13 マイルの支線道路を手作業で、手作業が難しい地域では重機を使用して修復作業を行なった。

5-1.実施事業詳細 ※以下概念ごとに整理	—以下の類型ごと実績把握のための特記事項— ※1.原則4つの類型で整理 ※2.同一対象者に複数メニューを実施する場合はそれぞれの内容別に個別記載 ※3.実施事業中(1)については、裨益者選定手法別に記載 ※4. " (2)については、設置メニュー別に記載(例:トイレ、シェルター) ※5. " (3)については、箇所ごとの実績を記載 ※6. " (4)については、(1)~(3)と一帯不可分と看做される場合(作業対価の配布等)は、一括記載			
(1) 仮設・簡易施設設置	1. 井戸設置			
事業実施期間	2005 年 4 月 19 日~2005 年 8 月 12 日			
総裨益者数、総設置個数	12,603 人(根拠:人口調査を各受益コミュニティで行った結果の集計。受益者数=各村の人口。)		17 本	
ポバ県	Lein	544 人	1 本	
	Valleway	290 人	1 本	
	Jawajai	250 人	1 本	
	Bombor Dasalamu	439 人	1 本	
	Bohay	1,226 人	1 本	
	Gangama	405 人	1 本	
	Juejuah	545 人	1 本	
	Sue	472 人	1 本	
	テウオー県	York Island	195 人	1 本
		Sewu	2,902 人	1 本
		Bandor	1,841 人	1 本
		Zwanii I	319 人	1 本
		Tewor Fahnbulleh	675 人	1 本
		Gondama	750 人	1 本
Gambia		450 人	1 本	
Jenneh Liberia		750 人	1 本	
Jojoima	550 人	1 本		
①設置物仕様	<p><設置物内容ー井戸> 設置前には、①井戸はなく、居住地域から離れた小川の水を飲料水として利用していたため、赤痢やコレラなど水に関連する疾患に感染する危険があったり、②既存の井戸があったとしても井戸数が十分でないため、帰還により増加した住民を支えることができず、常に井戸の周りに水を汲む住民の長い列ができていたりしていた。このような理由から、安全且つ十分な水量を充足するために井戸を設置した。</p> <p><構成> 井戸 1 本あたりの構成詳細については、別添 1-1 参照。</p>			

<p>②調達実績</p>	<p><調達実績及び活動経過> 新設井戸 17 本分の資器材調達のため、3 者見積もりを取得し、最もふさわしい業者を選定、支払い指示書を準備し、業者より資材を購入するという手続きを踏んで調達を実施した。 調達期間は 4 月 14 日から 6 月 14 日までの 62 日間(Dewatering Pump water hose 2" の購入が最終)。 ※ 当初予算計画上の資器材明細別に記載(別添 1-2 参照)</p> <p><調達過程上での課題及び対処> 質の良い井戸の排水用ポンプのホース(de-watering hose)がモンロビアで入手できないため、新設・修復井戸の内部の清浄、排水、最終掘削作業が一時停滞したが、質の良い井戸排水用ポンプ・ホースの代替品(Dewatering Pump water hose 2")で対処した。</p> <p><改善点> 質の良い井戸の排水用ポンプが入手できないため、常に代替品のスペアを倉庫に保管することにより、井戸の排水、最終掘削作業を停滞することなく行なうことができるようになった。</p>																																																							
<p>③設置箇所選定</p>	<p><設置箇所の選定手法及び活動の経過> 地域のリーダーやコミュニティ福祉委員(CWT)と連携して、地域住民が参加し、選定を行った。 また、UN機関が使用している環境保健・水・衛生施設アセスメント・フォーマットの内容に則して、村の人口、水源、飲料水の状況、トイレの状況、病気の媒体となる害虫・鼠の有無、村の位置・地質状況・生業や学校の施設の状況に関する調査を行ない、井戸の必要性、帰還予定者数(戦前の人口-現在の人口)や社会的弱者の数、およびワールド・ビジョン宛の嘆願書を検討し、設置場所を選定した。</p> <p><選定過程上での課題及び対処> 第 2 期事業に引き続き、(1)UN 機関など他団体によって事業が行なわれておらず、道路事情及び交通の便が悪い村落に焦点を当てる、(2)水と衛生施設(トイレ)の重要性及び自助努力の必要性の説明、(3)コミュニティによる事業への参画の重要性について説明と啓発活動を継続的に行なった上で、設置・修復作業を行なった。</p> <p><改善点> 上記の対処(1)に関しては、グランド・ケープ・マウント州における NGO 月例事業調整会議に出席した団体の活動状況を把握すると共に、同会議欠席の団体に関しては別個に事業予定を入手して、事業予定地の確保を図った、対処(2)、(3)に関しては、ニーズが高く、コミュニティに事業参加の自主性がみられる村落を選定した。</p>																																																							
<p>④設置行程 ※予算措置人役の関与を明確にするよう記述。</p>	<p><設置行程及び活動経過> 1-1 井戸 1 本設置あたりの標準工程</p> <table border="1" data-bbox="456 907 1211 1182"> <thead> <tr> <th>必要日数・時間数</th> <th>行程</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6~7 日間(※1)</td> <td>井戸掘削</td> </tr> <tr> <td>2.5 日間(※2)</td> <td>暗渠設置</td> </tr> <tr> <td>1~2 日間</td> <td>最終掘削</td> </tr> <tr> <td>3~8 時間</td> <td>地下水回復度計測</td> </tr> <tr> <td>2~3 時間(採水・移動時間を除く)</td> <td>水質検査</td> </tr> <tr> <td>1.5~2 時間(乾燥時間を除く)</td> <td>井戸上部製作</td> </tr> <tr> <td>1.5 時間(乾燥時間を除く)</td> <td>井戸上部設置</td> </tr> <tr> <td>1~2 日間(乾燥時間を除く)</td> <td>エブロン設置</td> </tr> <tr> <td>3~4 時間</td> <td>ポンプヘッド設置</td> </tr> <tr> <td>1 日</td> <td>井戸の殺菌</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>13 日~15 日間</td> </tr> </tbody> </table> <p>(※1) 地質により掘削に必要な期間は異なる (※2) 所要日数は井戸の深さにより変更</p> <p>1-2 実施方法 ニーズ調査実施後、当事業の主旨についてプロジェクト・オフィサー、フィールド・モニターⅡ(ソーシャル・ワーカー)がコミュニティ・リーダーや住民に説明を行ない、井戸の必要性を理解した上で、労力や資材の自主的提供が確認された村落で事業を実施した。 WV は井戸の掘削前に道具を配布し、コミュニティは井戸設置に必要な資材(砂、砂利)と労働力を提供した。フィールド・モニターⅠ(WATSAN テクニシャン)立会いの下、コミュニティと CWT が井戸掘削を行なった。技術を要する暗渠設置、最終掘削、地下水回復度計測、井戸上部、エブロン、ポンプ上部設置、井戸の殺菌は技術指導者であるフィールド・モニターⅠが実施した。設置作業と並行して、本事業の保健普及員が衛生教育(水・衛生/WATSAN 施設の衛生的な使用の必要性など)を行った。 また、自己資金にてコミュニティの人材育成のため、CWT に対して井戸設置技術や保健衛生の知識などについて実地トレーニングを実施した。設置した井戸を継続的に管理し、コミュニティへの衛生啓発活動を行なうために、井戸を設置・修復した各地域から WATSAN 管理委員会やコミュニティ保健委員(CHT)が選ばれた。実施したトレーニングの日程は以下の通り。</p> <table border="1" data-bbox="456 1592 1211 1787"> <thead> <tr> <th rowspan="2">トレーニング</th> <th rowspan="2">対象県</th> <th rowspan="2">期間</th> <th colspan="3">参加者</th> </tr> <tr> <th>男性</th> <th>女性</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">WATSAN 修復 管理講習会</td> <td>テウオー県</td> <td>9 月 21~22 日</td> <td>9 人</td> <td>2 人</td> <td>11 人</td> </tr> <tr> <td>ボバ県</td> <td>9 月 23~24 日</td> <td>10 人</td> <td>-</td> <td>10 人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">CHT 人材育成 トレーニング</td> <td>テウオー県</td> <td>6 月 22~23 日 6 月 29 日</td> <td>8 人</td> <td>26 人</td> <td>34 人</td> </tr> <tr> <td>ボバ県</td> <td>8 月 9~12 日</td> <td>14 人</td> <td>22 人</td> <td>36 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>設置・修復完了時にはコミュニティの住民との間に事業完了報告書を交わし、修復に必要な修理道具(ポンプのスペアパーツ・キット、ポンプ付属の修繕道具)を村長の目の前で WATSAN 管理委員会に引き渡した。</p>	必要日数・時間数	行程	6~7 日間(※1)	井戸掘削	2.5 日間(※2)	暗渠設置	1~2 日間	最終掘削	3~8 時間	地下水回復度計測	2~3 時間(採水・移動時間を除く)	水質検査	1.5~2 時間(乾燥時間を除く)	井戸上部製作	1.5 時間(乾燥時間を除く)	井戸上部設置	1~2 日間(乾燥時間を除く)	エブロン設置	3~4 時間	ポンプヘッド設置	1 日	井戸の殺菌	合計	13 日~15 日間	トレーニング	対象県	期間	参加者			男性	女性	合計	WATSAN 修復 管理講習会	テウオー県	9 月 21~22 日	9 人	2 人	11 人	ボバ県	9 月 23~24 日	10 人	-	10 人	CHT 人材育成 トレーニング	テウオー県	6 月 22~23 日 6 月 29 日	8 人	26 人	34 人	ボバ県	8 月 9~12 日	14 人	22 人	36 人
必要日数・時間数	行程																																																							
6~7 日間(※1)	井戸掘削																																																							
2.5 日間(※2)	暗渠設置																																																							
1~2 日間	最終掘削																																																							
3~8 時間	地下水回復度計測																																																							
2~3 時間(採水・移動時間を除く)	水質検査																																																							
1.5~2 時間(乾燥時間を除く)	井戸上部製作																																																							
1.5 時間(乾燥時間を除く)	井戸上部設置																																																							
1~2 日間(乾燥時間を除く)	エブロン設置																																																							
3~4 時間	ポンプヘッド設置																																																							
1 日	井戸の殺菌																																																							
合計	13 日~15 日間																																																							
トレーニング	対象県	期間	参加者																																																					
			男性	女性	合計																																																			
WATSAN 修復 管理講習会	テウオー県	9 月 21~22 日	9 人	2 人	11 人																																																			
	ボバ県	9 月 23~24 日	10 人	-	10 人																																																			
CHT 人材育成 トレーニング	テウオー県	6 月 22~23 日 6 月 29 日	8 人	26 人	34 人																																																			
	ボバ県	8 月 9~12 日	14 人	22 人	36 人																																																			

<p>④設置行程 ※予算措置人役の関与を明確にするよう記述。</p>	<p>2. 期間中の規模展開に係る計画 一ア、設置計画及び設置</p> <p>事業期間中は例年より雨季の開始が早かったことから、当初は1井戸の設置に対し、掘削初日にCWT1名及びコミュニティの受益者に対して、フィールド・モニターI(WATSAN テクニシャン)がOJTを行ないつつ、全工程を1週間で終える計画をしていた。</p> <p>しかし、井戸の穴に入っていくことを恐れる住民が多かったこと等が原因で、OJTで技術移転をすることのできた受益者が予定より少なかったため、フィールド・モニターI及びCWTが各地域での設置開始日数をずらしながら巡回する方法を取った。また、質の良い井戸排水用ポンプ・ホースの代替品の調達に時間を要したため、新設・修復井戸の内部の清浄、排水、最終掘削作業が一時停滞し、井戸一カ所の作業の遅延が全体の作業遅延につながった。そのため1本あたりの標準作業期間が上記の表(1-1)に示されているとおり、倍の長さとなった。</p> <p>一イ、期間中の展開日数</p> <p>4月18日着手、4月22日最終着手、8月12日全設置完了日 正味設置期間118日)</p> <p>3. 業務従事形態 フィールド・モニターI(WATSAN テクニシャン)の指揮・監督の下、CWTが各コミュニティで地域住民のリーダーシップを取って設置作業にあたった。</p> <div data-bbox="539 658 1289 920" data-label="Diagram"> </div> <p>① 直接工事人役の確保の状況 支援対象地域の住民(ボランティア)、CWT20人(テウオー県、ポバ県各10人:事業終了時に謝金)、フィールド・モニターI 8人(WATSAN、土木テクニシャン/直接雇用)、フィールド・モニターII 6人(ソーシャル・ワーカー/直接雇用)、保健普及員2人(直接雇用)。</p> <p>② JPF 予算措置人役の関係 まずフィールド・モニターII(ソーシャル・ワーカー)がコミュニティに対してセンシタイゼーションを行った。その後、フィールド・モニターI(WATSAN、土木テクニシャン)が、CWTに対して実地トレーニングを行ないながら、井戸設置を行なった。修復作業と並行して保健普及員による衛生教育も行なった。</p> <p>③ 連携先 NGO 等の関与のしくみ ワールド・ビジョン・リベリア(WVL)は、井戸設置用資材調達やトラック・レンタルなどのロジ手配、コモディティ部門専門家によるコモディティ管理、保健・衛生部門専門家による衛生啓発活動についてのアドバイスをを行った。</p> <p><活動上の課題及び対処></p> <p>(1) 支援対象地域には井戸の最終掘削(技術を要する掘削最終段階の仕上げ作業)経験者がおらず、CWTに実地トレーニングを行ないながら、フィールド・モニターIが交替で最終掘削にあたったため、井戸設置に予定より時間を要した。</p> <p>(2) 質の良い井戸の排水用ポンプのホースがモンロビアで入手できなかったため、新設・修復井戸の内部の清浄、排水、最終掘削作業が一時停滞した。</p> <p>対処としては、(1)OJTを通して最終掘削の技術を身に付けたCWTが最終掘削作業にあたり、その間、別の地域でフィールド・モニターI(WATSAN テクニシャン)が井戸設置にあたった、(2)については、本事業のWATSAN テクニシャンが質の良い井戸排水用ポンプ・ホースの代替品を購入することで対処した。</p> <p><改善点></p> <p>対処(1)については、OJTで最終掘削が出来るようになったCWTを作業が終わっていない支援対象地に戦略的に配置した。対処(2)については、設置・修復作業を行なっている井戸に井戸排水用ポンプ・ホース代替品のスペアを常備し、井戸内部の清浄、排水作業が遅延しないように努めた。</p>	
<p>⑤連携実績</p>	<p>団体名称</p>	<p>連携実績(上記①～③のどの過程で関与があるのか具体的に)</p>
<p>現地 NGO</p>	<p>ワールド・ビジョン・リベリア(WVL)</p>	<p>資材調達(②)、トラック・レンタルなどのロジ手配(②)</p>
<p>現地行政府</p>	<p>土地・鉱物資源・エネルギー省、LRRRC (Liberia Refugee Repatriation & Resettlement Commission)</p>	<p>井戸の水質検査やWATSANの技術指導、現場での他NGOとの調整(③)</p>
<p>国際機関</p>	<p>UNICEF</p>	<p>WATSANの技術指導(③)</p>
<p>補足資料について</p>	<p>活動箇所特定の地図を添付(地図2、地図3) 活動行程を特定する写真(別紙1-1) その他補足資料</p>	
<p>(2) 仮設・簡易施設設置 事業実施期間</p>	<p>2. 家族用トイレ 2005年4月18日～2005年7月29日</p>	

総裨益者数、総設置個数	1,762人(ボバ県763人、テウオー県999人)(根拠:各受益コミュニティで家族ごとの世帯人数調査を行った結果の集計。)
①設置物仕様	<p><設置物内容-家族用トイレ></p> <p>設置前には、①トイレがないため付近の叢で用を足していた、或いは②既存のトイレが一杯になり使用できず、付近の叢で用を足していた。このため、家屋周辺の環境を衛生的に保つことによって汚物混入が原因の病気の蔓延を防ぐため家族用トイレを設置した。</p> <p><諸元></p> <p>家族用トイレ:直径2.5~3フィート、深さ10~12フィート</p> <p><構成></p> <p>別添2-1参照。</p>
②調達実績	<p><調達実績及び活動経過></p> <p>家族用トイレの資材調達のため、3者見積もりを取得した。最も適切な業者を選定した後、支払い指示書を準備し、納入業者から資材を購入する方法で調達をおこなった。</p> <p>2005年4月14日から、2005年5月5日までの22日間で調達を実施した。</p> <p>※ 当初予算計画上の資器材明細別に記載(別添2-2参照)</p> <p><調達過程上での課題及び対処></p> <p>特になし。</p> <p><改善点></p> <p>特になし。</p>
③設置箇所選定	<p><設置箇所の選定手法及び活動の経過></p> <p>地域のリーダーやCWTと連携して、地域住民が参加できる形で選定を行った。</p> <p>UN機関が使用している環境保健・水・衛生施設アセスメント・フォーマットの内容に則して、村の人口、水源、飲料水の状況、トイレの状況、病気の媒体となる害虫・鼠の有無、村の位置・地質状況・生業や学校の施設の状況に関する調査結果を井戸の必要性、帰還予定者数(戦前の人口-現在の人口)や社会的弱者の数、およびワールド・ビジョン宛の嘆願書に基づき検討し、設置箇所を抽出した。</p> <p><選定過程上での課題及び対処></p> <p>第2期事業に引き続き、(1)UN機関を含めた他団体によって支援活動が行われていない、道路事情及び交通の便の悪い村落に焦点を当てる、(2)水と衛生施設(トイレ)と自助努力の必要性の説明、(3)コミュニティへの事業への参画の重要性の説明と啓発活動を行なった上で、設置・修復作業を行なった。</p> <p><改善点></p> <p>上記の対処(1)に関しては、グランド・ケープ・マウント州におけるNGO月例事業調整会議に出席して他団体の活動状況を把握すると共に、同会議欠席の団体に関しては別個に事業予定を入手して、事業予定地の確保を図る、対処(2)、(3)に関しては、ニーズが高く、コミュニティに事業参加への自主性がみられる村落を対象として選定した。</p>

④設置行程 ※予算措置人役の関与を明確にするよう記述。	<p><設置行程及び活動経過></p> <p>1-1-2. 家族用トイレ1基設置あたりの標準工程</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>必要日数・時間数</th> <th>行程</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2~3日間(※)</td> <td>トイレ掘削</td> </tr> <tr> <td>1.5時間</td> <td>コンクリート製足踏み台製作</td> </tr> <tr> <td>2~3日間</td> <td>壁骨組み、土壁作り</td> </tr> <tr> <td>3~6時間</td> <td>屋根設置</td> </tr> <tr> <td>0.5日</td> <td>ドア設置</td> </tr> <tr> <td>1日</td> <td>トイレ床及び壁補強</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>5日~7日間</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 地質により必要な期間は異なる</p> <p>1-2. 実施方法</p> <p>ニーズ調査実施後、当事業の主旨について地域のリーダーや住民に説明を行ない、トイレ設置の必要性に対するコミュニティの理解を深め、労働力や資材の自主的提供が確認された村落と合意書を交わした後に、事業を実施した。(立地状況等の理由で、コミュニティが資材を提供できない村落は資材を提供して事業を行った。)WV はトイレの掘削前に道具を配布し、掘削終了を確認してから資材(トン、釘、コンクリート製足踏み台、扉、扉枠)を配布した。受益世帯は労働力やトイレ設置に必要な資材(砂、砂利)を提供した。</p> <p>フィールド・モニターIがCWTやコミュニティの住民に対して実地トレーニングを行ないつつ、コンクリート製足踏み台を製作した。</p> <p>フィールド・モニターIの指導のもとで、地域住民がトイレの穴掘り、コンクリート製土台設置、壁骨組み作り、屋根設置、ドア設置を行なった。コンクリートによるトイレの壁及び床補強については、塗装の技術を要することから、フィールド・モニターI、CWT、コミュニティが協力して行なった。フィールド・モニターIは定期的に設置状況を点検した。設置作業と並行して、本事業の保健普及員が衛生教育(WATSAN 施設の衛生的な使用の必要性など)を行った。また、コミュニティの人材育成のため、CWT に対してコンクリート製足踏み台の製作や保健衛生の知識などについて実地トレーニングを実施した。コミュニティへの衛生啓発活動を持続的に行なう目的で、コミュニティ保健委員(CHT)がコミュニティを通じて選出された。</p> <p>設置完了時にはコミュニティの住民との間に事業完了報告書を交わし、修復に必要な修理道具(ハンマー、シャベルなど)を村長の目の前で WATSAN 管理委員会に引き渡した。なお、引き渡した修復道具の数は、対象地域において設置したトイレ数の半分とした(例:テウオー県 Zwanii ではトイレ数 15 基に対し、道具各 7 個を引き渡した)。</p> <p>2. 期間中の規模展開に係る計画</p> <p>一ア、設置計画及び設置</p> <p>当初、1日当り20穴、6日間で120穴掘削する予定であったが、農繁期であったため、作業がやや遅延する結果となった。</p> <p>一イ、期間中の展開日数(4月18日着手、5月28日最終着手、7月29日全設置完了日)</p> <p>(正味設置期間 104日間)</p> <p>3. 業務従事形態(請負か直接執行かわかるように記載)</p> <p>① 直接工事人役の確保の状況</p> <p>支援対象地域の住民(ボランティア)、CWT20人(事業終了時に謝金)、フィールド・モニターI 8人(WATSAN テクニシャン/直接雇用)、フィールド・モニターII 6人(ソーシャル・ワーカー/直接雇用)、保健普及員2人(直接雇用)。</p> <p>② JPF 予算措置人役の関係</p> <p>まずフィールド・モニターII(ソーシャル・ワーカー)がコミュニティに対してセンタイゼーションを行った。その後で、フィールド・モニターI(WATSAN テクニシャン)が、CWT に対して実地トレーニングを行ないながら、トイレ設置を行なった。修復作業と並行して保健普及員による衛生教育も行なった。</p> <p>③ 連携先 NGO 等の関与のしくみ</p> <p>WVL は、家族用トイレ設置用資材調達やトラック・レンタルなどのロジ手配、コモディティ部門専門家によるコモディティ管理、保健・衛生部門専門家による衛生啓発活動についてのアドバイスを行なった。</p> <p><活動上の課題及び対処></p> <p>本事業当初より農繁期が始まり、家族用トイレの受益世帯のトイレ設置作業がやや遅延した。対処としては、(1)住民の9割以上がイスラム教徒で金曜日は農作業に従事しないため、金曜日を受益世帯がトイレ設置作業に充てるようにセンタイゼーションを行なった、(2)テウオー県よりトイレ設置作業がやや遅れていたボバ県では、トイレ設置速度に合わせて、井戸の設置作業を行ない、トイレが完成することを見届けて、井戸のポンプ・ヘッド設置を行なった。</p> <p><改善点></p> <p>コミュニティの住民とは、これまで以上に話し合いの場を設けるとともに、自助努力の必要についても継続して説明を行う。また、支援対象地域の住民が、設置する水・衛生施設に対して所有者意識をもって、長期にわたって衛生的に使用していくことができるように、住民に対してセンタイゼーションや保健衛生トレーニングを行なう。トイレを設置した地域内のモデル地域を他の事業実施地域の住民が訪問することにより、他地域より学ぶ機会を与える。その一環として、WATSAN 修復・管理講習会をモデル地域(テウオー県ゴンダマ、ボバ県ボヘイ)において実施した。</p>		必要日数・時間数	行程	2~3日間(※)	トイレ掘削	1.5時間	コンクリート製足踏み台製作	2~3日間	壁骨組み、土壁作り	3~6時間	屋根設置	0.5日	ドア設置	1日	トイレ床及び壁補強	合計	5日~7日間
	必要日数・時間数	行程																
2~3日間(※)	トイレ掘削																	
1.5時間	コンクリート製足踏み台製作																	
2~3日間	壁骨組み、土壁作り																	
3~6時間	屋根設置																	
0.5日	ドア設置																	
1日	トイレ床及び壁補強																	
合計	5日~7日間																	
⑤連携実績	団体名称	連携実績(上記①~③のどの過程で関与があるのか具体的に)																
現地 NGO	ワールド・ビジョン・リベリア(WVL)	資材調達(②)、トラック・レンタルなどのロジ手配(②)																
現地行政府	土地・鉱物資源・エネルギー省、LRRRC (Liberia Refugee Repatriation & Resettlement Commission)	WATSAN の技術指導、現場での他 NGO との調整(③)																
国際機関	UNICEF	WATSAN の技術指導(③)																

補足資料について	活動箇所特定の地図を添付(地図2、地図3) 活動行程を特定する写真(別添 1-2) その他補足資料
----------	---

(3) 施設応急修復	井戸修復		
対象施設群選定方針	井戸修復事業実施地域は、難民・国内避難民の帰還に伴う人口が増加しているが、既存の井戸がポンプ・ヘッドなどの故障または内戦中の略奪などにより機能せず、住民は集落より離れた小川などを飲料水として使用していた。このため、赤痢やコレラなど水に関連する疾患にかかる住民が多く、安全且つ十分な水量を充足するために井戸の修復を行った。		
	施設箇所数	裨益者状況	備考
修復施設数計	井戸 3 箇所	2,061 人	人口調査を各受益コミュニティで行った結果の集計 ² 。受益者数=各村の人口。
ポバ県 Kpessseh	1 箇所	530 人	同上
Largor	1 箇所	303 人	同上
テウォー県 Hunkpeh	1 箇所	1,228 人	同上
事業実施手法	<p><事業実施のための作業形態></p> <p>① 直接作業人役の確保の状況(直接雇用、業務委託の状況) 支援対象地域の住民(ボランティア)、CWT20人(事業終了時に謝金)、フィールド・モニターI 8人(WATSAN、土木テクニシャン/直接雇用)、フィールド・モニターII 6人(ソーシャル・ワーカー/直接雇用)、保健普及員2人(直接雇用)。</p> <p>② 個別資器材の調達実態(直接調達、業務委託の状況) 修復用井戸3本分に相当する資器材調達は直接調達を行なった。</p> <p>③ 上記①、②に係る JPF 予算措置人役の関与について 上記①では、まずフィールド・モニターII(ソーシャル・ワーカー)がコミュニティに対してセンシタイゼーションを行った。その後、フィールド・モニター(WATSAN テクニシャン)が、コミュニティや CWT に対して実地トレーニングを行ないながら、機能しなくなったポンプ・ヘッドやベースを外し、排水・井戸内部の清浄、暗渠の設置、エプロンの設置、井戸上部、ポンプ上部の設置を行なった。修復作業と並行して保健普及員による衛生教育も行なった。②については、本事業ロジ担当が、WVL の協力を受けて資材を調達し、現地へ輸送した。</p> <p><活動上の課題及び対処> 前述の井戸設置<活動上の課題及び対処>参照。</p> <p><改善点> 前述の井戸設置<改善点>参照。</p>		
連携実績	団体名称	事業執行上どのの工程で関与しているのか具体的に	
現地 NGO	ワールド・ビジョン・リベリア(WVL)	資材調達(②)、トラック・レンタルなどのロジ手配(②)	
現地行政府	土地・鉱物資源・エネルギー省	井戸の水質検査や WATSAN の技術指導(③)	
国際機関	UNICEF	WATSAN の技術指導(③)	
	施設名	裨益者実績	
井戸 1(ポバ県)	Kpessseh	530 人	根拠: UNHCR の調査結果による
①施設概要	対象村落の住民に対して安全で十分な水を供給する。		
②損壊状況	ポンプが故障しており住民が井戸を使用できない状況であった。		
③損壊による影響	ポンプの故障で、住民が集落より離れた小川へ水汲みに行っており、水により伝染する病気に罹患者がでるような影響が出ていた。		
④対象修復等内容	壊れたポンプ・ベースやポンプ・ヘッドを取り外し、排水、井戸内部の清浄、暗渠設置、エプロンの設置、ポンプ・ベースやポンプ・ヘッドの設置を行なった。		
特定理由	上記修復実施により対象村落の住民が小川へ水汲みに行く必要がなくなり、安全且つ十分な水へのアクセスが可能となるため。		
⑤直接事業費	執行経費: 150,397 円(左官道具等共通経費除く。)		
⑥工期	4 月 22 日—8 月 12 ³ 日(123 日間)		
	施設名	裨益者実績	
井戸 2(ポバ県)	Largor	303 人	根拠: UNHCR の調査結果による
①施設概要	対象村落の住民に対して安全で十分な水を供給する。		
②損壊状況	ポンプが故障しており住民が井戸を使用できない状況であった。		
③損壊による影響	ポンプの故障で、住民が集落より離れた小川へ水汲みに行っており、水により伝染する病気に罹患者がでるような影響が出ていた。		
④対象修復等内容	ポンプ・ベースやポンプ・ヘッドを外し、排水、井戸内部の清浄、暗渠設置、エプロンの設置、ポンプ・ベースやポンプ・ヘッドの設置を行なった。		
特定理由	上記修復実施により対象村落の住民が小川へ水汲みに行く必要がなくなり、安全且つ十分な水へのアクセスが可能となるため。		
⑤直接事業費	執行経費: 150,397 円(左官道具等共通経費除く。)		
⑥工期	4 月 22 日—8 月 12 日(123 日間)		
	施設名	裨益者実績	
井戸 3(テウォー県)	Hunkpeh	1,228 人	根拠: UNHCR の調査結果による

² UNHCR (August 2005) "Community Needs Assessment: Population by District/ Town and Age-Group and Sex"による。

³ 8 月 12 日に最終水質検査を行なったため、工期の最終日とした。なお、実際の井戸の修復作業は 7 月末で終了した。

①施設概要	対象村落の住民に対して安全で十分な水を供給する。
②損壊状況	ポンプが故障しており住民が井戸を使用できない状況であった。
③損壊による影響	ポンプの故障で、住民が集落より離れた小川へ水汲みに行っており、水により伝染する病気に罹患者が出るような影響が出ていた。
④対象修復等内容	ポンプ・ベースやポンプ・ヘッドを外し、排水、井戸内部の清浄、暗渠設置、エプロンの設置、ポンプ・ベースやポンプ・ヘッドの設置を行なった。
特定理由	上記修復実施により対象村落の住民が小川へ水汲みに行く必要がなくなり、安全且つ十分な水へのアクセスが可能となるため。
⑤直接事業費	執行経費: 150,397 円(左官道具等共通経費除く。)
⑥工期	4 月 22 日—8 月 12 日(123 日間)
⑦補足資料	活動箇所特定の地図を添付(地図2、地図3) 活動行程を特定する写真(別添 1-2)

(4) 施設応急修復	小学校修復		
対象施設群選定方針	①内戦中の銃弾によりトタン屋根に損傷、②木製の天井、窓の木枠及び扉にシロアリの被害、③建物の土台の浸食、④壁にヒビ、⑤教室家具の略奪の影響を受けていた。雨季の間は雨漏りが深刻であるため、子どもたちは村の集会所に避難したり、教室で床に直接座ったりして授業を受けていた。このため、コミュニティや県教育官とアセスメントをした結果、ポバ県マノグレイ小学校、ボエ・サン小学校、テウオー県ボバロー小学校、ゴンダマ小学校の計 4 校を修復することとなった。		
修復施設数計	施設箇所数	裨益者状況	備考
	小学校 4 カ所	821 人	学校のアセスメント結果の集計。受益者数=生徒数+教員数。新年度の生徒登録数は左の数値を上回る見込み
Mono Gleh Public School (ManoGleh)	ポバ県 1 カ所	247 人	同上
VarneyKalilu Elementary School (Boe-san)	ポバ県 1 カ所	245 人	同上
Gondama Community School (Gondama)	テウオー県 1 カ所	143 人	同上
Bobalor Public School(Bobalor)	テウオー県 1 カ所	186 人	同上
事業実施手法	<p><事業実施のための作業形態></p> <p>① 直接作業人役の確保の状況(直接雇用、業務委託の状況) 支援対象地域の木工 10 人、左官 8 人(労賃)、コミュニティ作業員 21 人(労賃)、CWT5 人(事業終了時に謝金)、土木エンジニア 1 人、フィールド・モニターⅠ 9 人(WATSANテクニシャン/直接雇用)、フィールド・モニターⅡ 6 人(ソーシャル・ワーカー/直接雇用)</p> <p>② 個別資器材の調達実態(直接調達、業務委託の状況) 小学校 4 校分に相当する資器材の直接調達を行なった。</p> <p>③ 上記①、②に係る JPF 予算措置人役の関与について 上記①では、まずプロジェクト・オフィサー、フィールド・モニターⅡ(ソーシャル・ワーカー)が学校委員会、教員、コミュニティに対してセンタイゼーションを行なった後で、ミーティングを持ち、コミュニティ側、WV 側の負担について合意を得た。また、コミュニティの主体的な参加、自助努力を助長するため、小学校修復作業に賃金を支給しないことを確認した。修復作業は、土木エンジニアの技術指導の下でコミュニティの木工と左官が中心となって実施した。修復活動のモニタリングは CWT とフィールド・モニターⅠが行なった。修復期間中、コミュニティは木工・左官の昼食を準備した。また、教室の家具(教室用机、椅子、仕切り用板、黒板)は修復した小学校で、コミュニティの木工が組み立てた。③については、本事業ロジ担当が、WVL の協力を受けて資材を調達し、現地へ輸送した。</p> <p>修復完了時にはコミュニティの住民との間に事業完了報告書を交わし、修復に必要な修理道具(shovel, trowel, hammer, raping saw, level, wheelbarrow, pin bar, pig feet barrel, bucket, plain 各 1)を村長の目の前で学校委員会に引き渡した。</p> <p><活動上の課題及び対処></p> <p>(1) 屋根用トタンの調達が遅れたため、作業工程に遅れが生じた。 (2) 事業中盤になり、ボバロー小学校があるボバロー・コミュニティは、賃金を支給しない限り修復作業は行なわないと主張し、作業が一時的に停止する事態が発生した。</p> <p>対処としては、(1)屋根用トタン以外の資器材を小学校の位置するコミュニティへ運搬し、屋根用トタンの到着を待った上で、修復作業を開始した。(2)ボバロー・コミュニティと数度にわたりミーティングを持ち、最終的にコミュニティの木工・左官 5 人が作業に参加した。作業に大幅な遅れが生じたため、応援として、フィールド・モニターⅠ(2 人)、テウオー県の他のコミュニティから作業員 7 人が加わり、修復作業を完成させた。</p> <p><改善点></p> <p>上記(1)については、品薄になる可能性の高い資材(屋根用トタン、セメントなど)は、市場での調達が可能な時に必要量を調達し、一旦、WVL モンロビア倉庫に保管した上で、必要に応じて現場の倉庫に輸送し、作業が滞らないようにする。また、(2)については、ある程度センタイゼーションをして変化が見られない時にはニーズが高く、事業参加に対して自主性がみられるコミュニティに小学校修復事業を移す。</p>		
連携実績	団体名称	事業執行上どの工程で関与しているのか具体的に	
現地 NGO	ワールド・ビジョン・リベリア(WVL)	資材調達(②)、トラック・レンタルなどのロジ手配(②)	
現地行政府	教育省、LRRRC(Liberia Refugee Repatriation & Resettlement Commission)	技術指導、現場での他 NGO との調整(③)	
国際機関	UNICEF	学校修復に関わる助言(③)	
	施設名	裨益者実績	
小学校 1 (ポバ県)	Mano Gleh Public School	247 人	根拠: 第 3 期時の調査結果による
①施設概要	当該村および周辺の子どものために快適な教育環境を整える。		

②損壊状況	①内戦中の銃弾によりトタン屋根に損傷、②木製の天井、窓の木枠、扉にシロアリの被害、③建物の土台の浸食、④壁にヒビ、⑤教室家具の略奪、⑥教室に十分な日光が入らない状況であった。		
③損壊による影響	トタン屋根が損傷を受けたため、雨季は雨漏りが深刻であり、子どもたちは村の集会所に避難して授業を受けていた。また、教室の家具が略奪にあったため、児童の多くが床に座って授業を受ける状況であった。		
④対象修復等内容	①建物土台強化、②屋根用トタン取り替え、③木製の天井の取り替え、③シロアリ対策のため、窓の木枠をとり、通気性のよいコロポ・ブロックを現場で製作、設置、④建物内部及び外部の塗装、⑤教室の間仕切り、黒板の塗装、設置、⑥扉の設置、⑦学校家具の組み立て、つやだしを塗り、学校名とJPF/WVのロゴが入ったプレートを学校家具に釘付けた。		
特定理由	2005年10月より、リベリアでは小学校教育が再び義務教育となった。そのため快適な教育環境を整え、児童の就学を促進するため学校修復が必要であるとコミュニティ及び県教育官より依頼を受けたため。		
⑤直接事業費	執行経費： 1,283,856 円(大工、左官、作業員労賃除く。)		
⑥工期	8月8日—9月25日(49日間)		
	施設名	裨益者実績	
小学校 2 (ポノバ県)	Varney Kallu Elementary School	245人	根拠：第3期時の調査結果による
①施設概要	当該村および周辺の子どものために快適な教育環境を整える。		
②損壊状況	①内戦中、銃弾による攻撃を受けたためトタン屋根に損傷、②木製の天井、窓の木枠、扉にシロアリの被害、③建物の土台の浸食、④壁にヒビ、⑤教室家具の略奪、⑥教室に十分な日光が入らない状況であった。		
③損壊による影響	トタン屋根が損傷を受けたため、雨季は雨漏りが深刻であり、子どもたちは村の集会所に避難して授業を受けていた。また、教室の家具が略奪にあったため、児童の多くが床に座って授業を受ける状況であった。		
④対象修復等内容	①建物土台強化、②屋根用トタン取り替え(採光のため、トタン屋根の一部を透明シートとした)、③木製の天井の取り替え(採光のため、透明シートを設置した箇所にはプラスチック・スクリーンを設置)、③シロアリ対策のため、窓の木枠を取り、通気性のよいコロポ・ブロックを現場で製作、設置、④建物内部及び外部の塗装、⑤教室の間仕切り、黒板の塗装、設置、⑥扉の設置、⑦学校家具の組み立て、つやだしを塗り、学校名とJPF/WVのロゴが入ったプレートを学校家具に釘付けた。		
特定理由	2005年10月より小学校教育が再び義務教育となったため、子どもたちのために快適な教育環境を整え、就学を促進するために修復が必要であると当該コミュニティ及び県教育官より依頼を受けたため。		
⑤直接事業費	執行経費： 1,237,352 円(大工、左官、作業員労賃除く。)		
⑥工期	7月1日—9月25日(87日間)		
	施設名	裨益者実績	
小学校 3(テウオー県)	Gondama Community School	143人	根拠：第3期時の調査結果による
①施設概要	当該村および周辺の子どものために快適な教育環境を整える。		
②損壊状況	①屋根用トタンの損傷、②屋根用木材、ドアにシロアリによる被害、③教室家具、天井の部材の略奪、の被害を受けていた。		
③損壊による影響	トタン屋根が損傷を受けたため、雨季は雨漏りが深刻であり、子どもたちは村の集会所に避難して授業を受けていた。また、教室の家具が略奪にあったため、児童の多くが床に座って授業を受ける状況であった。		
④対象修復等内容	①屋根用トタン取り替え(採光のため、トタン屋根の一部を透明シートとした)、②木製の天井の取り替え(採光のため、透明シートを設置した箇所にはプラスチック・スクリーンを設置)、③建物内部及び外部の塗装、④教室の間仕切り、黒板の塗装、設置、⑥扉の設置、⑦学校家具の組み立て、つやだしを塗り、学校名とJPF/WVのロゴが入ったプレートを学校家具に釘付けた。		
特定理由	2005年10月より小学校教育が再び義務教育となったため、快適な教育環境を整え、児童の就学を促進するため、当該コミュニティ及び県教育官より修復依頼を受けたため。		
⑤直接事業費	執行経費： 833,563 円(大工、左官、作業員労賃除く。)		
⑥工期	7月1日—9月25日(87日間)		
	施設名	裨益者実績	
小学校 4(テウオー県)	Bobalor Public School	186人	根拠：第3期時の調査結果による
①施設概要	当該村および周辺の子どものために快適な教育環境を整える。		
②損壊状況	①屋根用木材、木製窓枠、窓、ドアにシロアリによる被害、②教室家具、天井の部材の略奪、③コンクリート製階段の風雨による浸食、④教室に十分な日光が入らない状況であった。		
③損壊による影響	教室の家具が略奪にあったため、児童の多くが床に座って授業を受ける状況であった。		
④対象修復等内容	①木製の天井の取り替え、②シロアリ対策のため、窓の木枠をとり、通気性のよいコロポ・ブロックを現場で製作し、設置、③建物内部及び外部の塗装、④教室の間仕切り、黒板の塗装、設置、⑥扉の設置、⑦学校家具の組み立て、つやだしを塗り、学校名とJPF/WVのロゴが入ったプレートを学校家具に釘付けた。		
特定理由	2005年10月より小学校教育が再び義務教育となったため、子ども達に快適な教育環境を整え、就学を促進するため、当該コミュニティ及び県教育官より依頼を受けたため。		
⑤直接事業費	執行経費： 875,948 円(大工、左官、作業員労賃除く。)		
⑥工期	8月8日—9月25日(49日間)		
⑦補足資料	地図2、地図3 行程を特定する写真(別添1-5)		

(5) 施設応急修復	支線道路簡易修復		
修復事業実施期間	4月19日～9月30日(165日間)		
対象施設群選定方針	<p>本事業で修復したティエニ(テウオー県)ーダンバラ(ポバ県)間の13マイル(約21キロ)の支線道路は、内戦前の1974年に建設されて以来修復されていなかった。そのため、①道路両側の藪が道路まで浸入し通行を妨げ、②降雨により小川等から氾濫した水が土壌表面を浸食、③道路上の穴と④粘土層の露出により、Butter Hill(テウオー県)などで車両の通行が困難となっていた、⑤過度の土壌の侵食により、Mambo Hill(テウオー県)、Double Hill(ポバ県)などで急な坂のため、車両事故(死亡事故)が多発、⑥道路上の2カ所に大きな岩が露出していたため、通行に支障をきたしていた、⑦道路状況が非常に悪かったため救急車などによる人道支援をポバ県で行うことができなかった等の問題が生じていた。以上の理由より、グランド・ケープ・マウント州知事、テウオー県及びポバ県知事より本道路の修復を依頼されたため、県知事らと協力してアセスメントを行った。</p>		
修復施設数	施設箇所数	裨益者状況	備考
支線道路	支線道路 13マイル	25,538 ⁴ 人	UNHCRの調査結果による
支線道路	テウオー県 8マイル	25,538人	裨益者数=幹線上のコミュニティ(ポバ県 Baaka, Boe-san, Gbanga, Gohn, Bamballa, Bendeja, Damballa, Kongo, Zimmi-dandai, テウオー県 Jenneh Wonde, Amina, Tewor Mendemassa, Gardianyee, Soso Town, Seifula, Gohn, Mambo, Wonde, Tieni) + 幹線を離れた地域の人口(上記のUNHCRの調査結果に含まれていないため幹線上のコミュニティの人口×2/3と推定)
支線道路	ポバ県 5マイル	25,538人	上述と同じ
事業実施手法	<p><事業実施のための作業形態></p> <p>① 直接作業人役の確保の状況(直接雇用、業務委託の状況) 支援対象地域の作業員84人⁵(労賃)、CWT6人(事業終了時に謝金)、土木エンジニア1人(直接雇用)、フィールド・モニター1人(WATSANテクニシャン/直接雇用)</p> <p>② 個別資器材の調達実態(直接調達、業務委託の状況) 道路修復関係の資器材の直接調達を行なった。ブルドーザーなどの重機については、WVの調達委員会が重機を所有する現地の業者より見積もりを取得し、最もふさわしい業者を選考した。</p> <p>③ 上記①、②に係るJPF予算措置人役の関与について 上記①では、まず日本人プロジェクト・マネージャー、プロジェクト・オフィサーがグランド・ケープ・マウント州知事、テウオー県知事、関係村の村長、長老とミーティングを行なった上で、県知事や村長、プロジェクト・オフィサー、土木エンジニア、フィールド・モニターが道路のアセスメントを行なった。その後、県知事、プロジェクト・オフィサー、フィールド・モニターⅡがコミュニティに対して、センシタイゼーションを行なった上で、沿線の村々が修復に携わる作業員を選出した。実際の修復作業は、土木エンジニアの技術指導の下、また作業員に対して実地トレーニングを行ないながら、作業員が手作業でできる、路肩の草刈、道路のポットホール補修、側溝作り、水はけの悪い部分でのカルバートの設置、雨により足場の悪くなった地域で、マッド・ブリッジと呼ばれる木の枝を道に敷く作業を行なった。日々の修復活動のモニタリングはCWTとフィールド・モニターⅡが行なった。手作業では修復不可能な粘土質の土壌を除く作業、浸食により坂の傾斜が険しくなった箇所を緩やかにする作業、道路をならして深い窪みの箇所を土を盛る作業には重機を使用した。③については、本事業ロジ担当が、WVLの協力を受けて資材を調達し、現地へ輸送した。</p> <p><活動上の課題及び対処></p> <p>(1) グランド・ケープ・マウント州の他地域で、LCIP(Liberia Community Initiative Program)が作業員に昼食及び労賃を支払っていたため、テウオー県より十分な数の作業員を得ることができなかった。</p> <p>(2) 水はけの悪い地域にカルバートを設置した際に大雨に見舞われたため、カルバート設置箇所周辺の足場が悪くなり、通行が困難になった。</p> <p>対処としては、(1)修復作業に当初より積極的であったポバ県の住民より多くの作業員が選ばれ、テウオー県より選出された作業員と協働して道路修復作業に従事した。(2)足場の悪い箇所にはマッド・ブリッジと呼ばれる木の枝を道に敷く作業を行ない、車両が通行できるよう処置を行なった。</p> <p><改善点></p> <p>センシタイゼーションに時間をかけ、州知事、県知事、関係村の村長、長老以外に加え、県開発委員会(District Development Committee)やコミュニティ開発委員会(Community Development Committee)が当初より参加し、修復後も管理していく体制を取る。</p>		

⁴ テウオー、ポバ県の道路受益者の総計とした。

⁵ 最も作業員が多かった時の内訳はポバ県55人、テウオー県29人。7月後半より39人(ポバ県24人、テウオー県15人)に縮小。

		＜道路修復作業過程＞		
		期間	活動内容	過程
道路修復作業過程	4月19日～21日	ミーティング、センシタイゼーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ グランド・ケープ・マウント州知事、県知事、関係村村長、長老とのミーティング ・ コミュニティに対してのセンシタイゼーション ・ 関係村による作業員の選出 ・ 作業用道具(山刀、斧、研ぎ器など)の配布 	
	4月22日～6月6日	道路肩の草刈作業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業員が路肩の藪を刈る(13マイル) ・ 斧や電動のこぎりを使用して、路肩の木を切る 	
	4月25日～6月20日	泥を除き、坂を削り、道路をならし、深い窪みの箇所土を盛る作業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重機(ブルドーザー)により坂を削り、浸食の非常に激しい箇所に土を盛る(Mambo Hill, Butter Hill I 及び Butter Hill II) ・ 重機(グレーダー)により道路の表面をならす ・ 重機(フロント・エンド・ローダー)がダンブ・トラックが深い窪みの箇所にラテライトを盛り、重機(ブルドーザー、フロント・エンド・ローダー)がラテライトを散らす ・ ダンブ・トラックによりラテライトを平らにし、土壌を固める 	
	5月5日～6月20日	路肩を掘り起こす作業	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブルドーザーにより路肩の丸太、枝、木の根等を取り除き、道幅を広げる 	
	4月22日～9月30日	道路のポットホール埋め、道路の浸食部分に土を埋め、側溝作り作業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土掘り道具、ショベル、手押し輪車などにより、道路のポットホール埋め、浸食部分には土を埋め、側溝作り作業を継続して行なう 	
	6月18日～9月30日	道路の保守作業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土掘り道具、ショベル、山刀、手押し輪車などにより、水はけが悪く足場の悪い地域にマッド・ブリッジと呼ばれる木の枝を敷く作業を行なう <p>＜マッドブリッジ(図1参照)＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 木の枝を2インチ間隔で敷く ・ 敷いた木の枝を固定するために、木の枝の両側に6インチの厚さの土を盛る ・ 6インチの厚さの土を道路の中央に向かって48インチの部分まで広げる <p>(図1)マッド・ブリッジ</p> <p>* マッド・ブリッジの設置は、雨により土壌がぬかるんだ箇所において、ラテライトが流出するのを防ぐことが狙いである。また、ラテライトを敷いた箇所が通行車両による損傷を防ぐ機能を持ち合わせている。</p>	
	* 排水溝の設置箇所、設置方法等については、以下参照。			
連携実績	団体名称	事業執行上どのの工程で関与しているのか具体的に		
現地 NGO	ワールド・ビジョン・リベリア (WVL)	資材調達(②)、トラック・レンタルなどのロジ手配(②)		
現地行政府	公共事業省、LRRRC (Liberia Refugee Repatriation & Resettlement Commission)	技術的指導、現場での他 NGO との調整(③)		
排水溝(カルバート)1	テウオー県 Tienii Town	25,538人	根拠: UNHCR の調査結果による	
①施設概要	雨水による洪水を制御する。			
②損壊状況	1974年以降、道路の修復がなされていなかったため、側溝がなくなり、排水することができなかった。			
③損壊による影響	側溝がなくなり、排水することができなかったため、道路に水が溢れ、通行に支障が生じていた。			
④対象修復等内容	①カルバートを埋めるため、側溝を掘り、②カルバートを埋めるための溝を掘り固め、③漆喰を使いカルバートを接着させ、④セメントブロック(6インチ)で防水壁を設置、⑤セメントブロックを漆喰で固め、⑥カルバートを埋めた箇所を重機により埋め戻す。			
特定理由	グランド・ケープ・マウント州知事、テウオー県・ポバ県知事より本道路の修復の依頼を受けたため。			
⑤直接事業費	執行経費: 84,643円(工事道具等共通経費除く。)			
⑥工期	5月26日—5月30日(5日間)			
	施設名	裨益者実績		
排水溝(カルバート)2	テウオー県 Amina Rubber Bush	25,538人	根拠: UNHCR の調査結果による	
①施設概要	雨水による洪水を制御する。			
②損壊状況	1974年以降、道路の修復がなされていなかったため、側溝がなくなり、排水することができなかった。			
③損壊による影響	側溝がなくなり、排水することができなかったため、道路に水が溢れ、通行に支障が生じていた。			
④対象修復等内容	①カルバートを埋めるため、側溝を掘り、②カルバートを埋めるための溝を掘り固め、③漆喰を使いカルバートを接着させた			
特定理由	グランド・ケープ・マウント州知事、テウオー県・ポバ県知事より本道路の修復の依頼を受けたため。			
⑤直接事業費	執行経費: 87,353円(工事道具等共通経費除く。)			
⑥工期	6月2日—6月6日(5日間)			
	施設名	裨益者実績		
排水溝(カルバート)3	テウオー県 Jeneh Wonde Market - Jeneh Wonde Town 間	25,538人	根拠: UNHCR の調査結果による	
①施設概要	雨水による洪水を制御する。			
②損壊状況	1974年以降、道路の修復がなされていなかったため、付近の沼地からの水を排水することができなかった。			
③損壊による影響	付近の沼地からの水を排水することができなかったため、道路に水が溢れ、通行に支障が生じていた。			

④対象修復等内容	①カルバートを埋めるため、側溝を掘り、②カルバートを埋めるための溝を掘り固め、③漆喰を使いカルバートを接着させた。カルバートを埋める際には、つるはしを利用した。		
特定理由	グランド・ケープ・マウント州知事、テウオー県・ポバ県知事より本道路の修復の依頼を受けたため。		
⑤直接事業費	執行経費： 95,901 円(工事道具等共通経費除く。)		
⑥工期	6月6日—6月10日(5日間)		
	施設名		裨益者実績
排水溝(カルバート)4	ポバ県 WVL Vehicle Stocked Area①	25,538 人	根拠: UNHCR の調査結果による
①施設概要	雨水による洪水を制御する。		
②損壊状況	1974 年以降、道路の修復がなされていなかったため、付近の沼地からの水を排水することができなかった。		
③損壊による影響	付近の沼地からの水を排水することができなかったため、道路に水が溢れ、通行に支障が生じていた。		
④対象修復等内容	①カルバートを埋めるため、側溝を掘り、②カルバートを埋めるための溝を掘り固め、③漆喰を使いカルバートを接着させた。カルバートを埋める際には、つるはしを利用した。		
特定理由	グランド・ケープ・マウント州知事、テウオー県・ポバ県知事より本道路の修復の依頼を受けたため。		
⑤直接事業費	執行経費： 102,155 円(工事道具等共通経費除く。)		
⑥工期	6月18日—6月22日(5日間)		
排水溝(カルバート)5	テウオー県 Soso Town Creek	25,538 人	根拠: UNHCR の調査結果による
①施設概要	雨水による洪水を制御する。		
②損壊状況	1974 年以降、道路の修復がなされていなかったため、付近の沼地からの水を排水することができなかった。		
③損壊による影響	付近の沼地からの水を排水することができなかったため、道路に水が溢れ、通行に支障が生じていた。		
④対象修復等内容	①カルバートを埋めるため、側溝を掘り、②カルバートを埋めるための溝を掘り固め、③漆喰を使いカルバートを接着させた。カルバートを埋める際には、つるはしを利用した。		
特定理由	グランド・ケープ・マウント州知事、テウオー県・ポバ県知事より本道路の修復の依頼を受けたため。		
⑤直接事業費	執行経費： 102,155 円(工事道具等共通経費除く。)		
⑥工期	6月23日—6月27日(5日間)		
排水溝(カルバート)6	テウオー県 Gardianye - Moiboya 間	25,538 人	根拠: UNHCR の調査結果による
①施設概要	雨水による洪水を制御する。		
②損壊状況	1974 年以降、道路の修復がなされていなかったため、付近の沼地からの水を排水することができなかった。		
③損壊による影響	付近の沼地からの水を排水することができなかったため、道路に水が溢れ、通行に支障が生じていた。		
④対象修復等内容	①カルバートを埋めるため、側溝を掘り、②カルバートを埋めるための溝を掘り固め、③漆喰を使いカルバートを接着させた。カルバートを埋める際には、つるはしを利用した。		
特定理由	グランド・ケープ・マウント州知事、テウオー県・ポバ県知事より本道路の修復の依頼を受けたため。		
⑤直接事業費	執行経費： 102,155 円(工事道具等共通経費除く。)		
⑥工期	6月26日—6月30日(5日間)		
排水溝(カルバート)7	テウオー県 Jenneh Wonde Town の ポバ県境にあるクリーク	25,538 人	根拠: UNHCR の調査結果による
①施設概要	雨水による洪水を制御する。		
②損壊状況	排水溝の代わりにかけられていた丸太の橋が損傷を受けており、付近の沼地からの水を排水することができなかった。		
③損壊による影響	付近の沼地からの水を排水することができなかったため、道路に水が溢れ、通行に支障が生じていた。		
④対象修復等内容	①損傷を受けた丸太を除去、②カルバートを埋めるため、側溝を掘り、③カルバートを埋めるための溝を掘り固め、④漆喰を使いカルバートを接着させた。カルバートを埋める際には、つるはしを利用した。		
特定理由	グランド・ケープ・マウント州知事、テウオー県・ポバ県知事より本道路の修復の依頼を受けたため。		
⑤直接事業費	執行経費： 102,155 円(工事道具等共通経費除く。)		
⑥工期	7月1日—7月5日(5日間)		
排水溝(カルバート)8	テウオー県 Butter Hill I	25,538 人	根拠: UNHCR の調査結果による
①施設概要	雨水による洪水を制御する。		
②損壊状況	1974 年以降、道路の修復がなされていなかったため、付近の沼地からの水を排水することができなかった。		
③損壊による影響	付近の沼地からの水を排水することができなかったため、道路に水が溢れ、通行に支障が生じていた。		
④対象修復等内容	①カルバートを埋めるため、側溝を掘り、②カルバートを埋めるための溝を掘り固め、③漆喰を使いカルバートを接着させた。カルバートを埋める際には、つるはしを利用した。		
特定理由	グランド・ケープ・マウント州知事、テウオー県・ポバ県知事より本道路の修復の依頼を受けたため。		
⑤直接事業費	執行経費： 111,641 円(工事道具等共通経費除く。)		
⑥工期	6月16日—6月20日(5日間)		
排水溝(木製) 9	ポバ県 Damballa Rubber Bush	25,538 人	根拠: UNHCR の調査結果による
①施設概要	雨水による洪水を制御する。		
②損壊状況	1974 年以降、道路の修復がなされていなかったため、側溝がなくなり、排水することができなかった。		
③損壊による影響	側溝がなくなり、排水することができなかったため、道路に水が溢れ、通行に支障が生じていた。		
④対象修復等内容	適当なサイズのカルバートの入手が困難であったため、カルボーリン(防虫剤を塗った木材で代用した。①作業員の手により溝を掘り、②材木を溝の幅に合わせて切り、③材木を排水溝にかけ、④ワイヤー釘により丸太と材木をつなぎ合わせた。		
特定理由	グランド・ケープ・マウント州知事、テウオー県・ポバ県知事より本道路の修復の依頼を受けたため。		
⑤直接事業費	執行経費： 10,904 円(工事道具等共通経費除く。)		
⑥工期	6月15日(1日間)		
排水溝(木製) 10	ポバ県 Majima Junction	25,538 人	根拠: UNHCR の調査結果による
①施設概要	雨水による洪水を制御する。		
②損壊状況	1974 年以降、道路の修復がなされていなかったため、側溝がなくなり、排水することができなかった。		
③損壊による影響	側溝がなくなり、排水することができなかったため、道路に水が溢れ、通行に支障が生じていた。		

④対象修復等内容	適当なサイズのカルバートの入手が困難であったため、カルポーリン(防虫剤を塗った木材で代用した。①作業員の手により溝を掘り、②材木を溝の幅に合わせて切り、③材木を排水溝にかけ、④ワイヤー釘により丸太と材木をつなぎ合わせた。		
特定理由	グランド・ケープ・マウント州知事、テウオー県・ポバ県知事より本道路の修復の依頼を受けたため。		
⑤直接事業費	執行経費： 10,904 円(工事道具等共通経費除く。)		
⑥工期	6月15日(1日間)		
排水溝(木製) 11	テウオー県 Gardianye - Butter Hill I 間	25,538 人	根拠: UNHCR の調査結果による
①施設概要	雨水による洪水を制御する。		
②損壊状況	1974 年以降、道路の修復がなされていなかったため、側溝がなくなり、排水することができなかった。		
③損壊による影響	側溝がなくなり、排水することができなかったため、道路に水が溢れ、通行に支障が生じていた。		
④対象修復等内容	適当なサイズのカルバートの入手が困難であったため、カルポーリン(防虫剤を塗った木材で代用した。①作業員の手により溝を掘り、②材木を溝の幅に合わせて切り、③材木を排水溝にかけ、④ワイヤー釘により丸太と材木をつなぎ合わせた。		
特定理由	グランド・ケープ・マウント州知事、テウオー県・ポバ県知事より本道路の修復の依頼を受けたため。		
⑤直接事業費	執行経費： 12,258 円(工事道具等共通経費除く。)		
⑥工期	6月17日(1日間)		
排水溝(木製) 12	テウオー県 Mambo school - Gohn Town 間	25,538 人	根拠: UNHCR の調査結果による
①施設概要	雨水による洪水を制御する。		
②損壊状況	1974 年以降、道路の修復がなされていなかったため、側溝がなくなり、排水することができなかった。		
③損壊による影響	側溝がなくなり、排水することができなかったため、道路に水が溢れ、通行に支障が生じていた。		
④対象修復等内容	適当なサイズのカルバートの入手が困難であったため、カルポーリン(防虫剤を塗った木材で代用した。①作業員の手により溝を掘り、②材木を溝の幅に合わせて切り、③材木を排水溝にかけ、④ワイヤー釘により丸太と材木をつなぎ合わせた。		
特定理由	グランド・ケープ・マウント州知事、テウオー県・ポバ県知事より本道路の修復の依頼を受けたため。		
⑤直接事業費	執行経費： 12,258 円(工事道具等共通経費除く。)		
⑥工期	6月17日(1日間)		
排水溝(木製) 13	ポバ県 WVL Vehicle Stocked Area②	25,538 人	根拠: UNHCR の調査結果による
①施設概要	雨水による洪水を制御する。		
②損壊状況	1974 年以降、道路の修復がなされていなかったため、側溝がなくなり、排水することができなかった。		
③損壊による影響	側溝がなくなり、排水することができなかったため、道路に水が溢れ、通行に支障が生じていた。		
④対象修復等内容	適当なサイズのカルバートの入手が困難であったため、カルポーリン(防虫剤を塗った木材と現地調達した丸太で代用した。①作業員の手により溝を掘り、②材木を溝の幅に合わせて切り、③材木を排水溝にかけ、④ワイヤー釘により丸太と材木をつなぎ合わせた。		
特定理由	グランド・ケープ・マウント州知事、テウオー県・ポバ県知事より本道路の修復の依頼を受けたため。		
⑤直接事業費	執行経費： 25,576 円(工事道具等共通経費除く。)		
⑥工期	7月7日(1日間)		
⑦補足資料	地図4 活動行程を特定する写真(別添1-3)		

(6) 施設応急修復	橋簡易修復			
対象施設群選定方針	上述の 13 マイルの道路上にある 5 か所の橋、及びポバ県の Hajila 橋が壊れていたため、車両及び住民の通行に支障をきたしていた。このため、道路修復の一環として、グランド・ケープ・マウント州知事、テウオー県・ポバ県知事より橋の修復を依頼されたため、テウオー県知事などとアセスメントをすることとなった。			
	施設箇所数		裨益者状況	備考
修復施設数計	橋 6 か所		25,538 人	UNHCR の調査結果による
橋	ポバ県	Majima Creek # 1	25,538 人	裨益者数=幹線上のコミュニティ(ポバ県 Baaka, Boe-san, Gbanga, Gohn, Bamballa, Bendeja, Damballa, Kongo, Zimmi-dandai, テウオー県 Jenneh Wonde, Amina, Tewor Mendemassa, Gardianye, Soso Town, Seifula, Gohn, Mambo, Wonde, Tienii)+幹線を離れた地域の人口(上記の UNHCR の調査結果に含まれていないため幹線上のコミュニティの人口×2/3と推定)
	ポバ県	Majima Creek # 2	25,538 人	上述と同じ
	ポバ県	Hajila	25,538 人	上述と同じ
	テウオー県	Jenneh Wonde - Kongo 間	25,538 人	上述と同じ
	テウオー県	Gohn Town	25,538 人	上述と同じ
	テウオー県	Mambo Creek	25,538 人	上述と同じ

事業実施手法	<p><事業実施のための作業形態></p> <p>① 直接作業人役の確保の状況(直接雇用、業務委託の状況) 支援対象地域の作業員 60 人(労賃)、CWT6 人(事業終了時に謝金)、土木エンジニア 1 人(直接雇用)、フィールド・モニター 1 人(WATSAN テクニシャン/直接雇用)</p> <p>② 個別資器材の調達実態(直接調達、業務委託の状況) 道路修復関係の資器材の直接調達を行なった。</p> <p>③ 上記①、②に係る JPF 予算措置人役の関与について 上記①では、県知事、プロジェクト・オフィサー、フィールド・モニターIIがコミュニティに対して、センシタイゼーションを行なった上で、沿線の村々が修復に携わる作業員を選出した。実際の修復作業は、土木エンジニアの技術面でのアドバイスのもと、また作業員に対して実地トレーニングを行ないながら、丸太橋の修復を行なった。③については、本事業ロジ担当が、WVLの協力を受けて資材を調達し、現地へ輸送した。なお、橋の修復は道路の修復と並行して実施したため、重機の力を借りて丸太をかけたり、橋の両側に土を盛り固めたりした。</p> <p><活動上の課題及び対処> グランド・ケープ・マウント州の他地域で、LCIP(Liberia Community Initiative Program)が作業員に昼食及び労賃を支払っていたため、特にテウォー県より十分な数の作業員を選出することができなかった。 対処としては、修復作業に当初より積極的であったポパ島の住民より多くの作業員が選ばれ、テウォー県より選出された作業員と協働して道路修復作業に従事した。</p> <p><改善点> センシタイゼーションにより時間をかけ、州知事、県知事、関係村の村長、長老以外にも、県開発委員会(District Development Committee)やコミュニティ開発委員会(Community Development Committee)が当初より参加し、修復後も管理していく体制をとる。</p>		
連携実績	団体名称	事業執行上のどの工程で関与しているのか具体的に	
現地 NGO	ワールド・ビジョン・リベリア(WVL)	資材調達(②)、トラック・レンタルなどのロジ手配(②)	
現地行政府	公共事業省、LRRRC	技術的な助言、現場での他 NGO との調整(③)	
橋 1(ポパ県)	Majima Creek #1	25,538 人	根拠: UNHCR の調査結果による
①施設概要	雨水による洪水を制御し、車両や住民の通行を容易にするため。		
②損壊状況	スチール製カルバートが損壊し、その上にかかっていた丸太橋が雨季の雨で流された。		
③損壊による影響	カルバートの損壊により排水ができず、またその上にかかっていた丸太橋が雨季の雨で流され、雨季には付近が水浸しになり、車両や住民の通行に支障をきたしていた。		
④対象修復等内容	①損壊したスチール製カルバートを重機(道路修復に使用していたフロント・エンド・ローダー)により取り除き、②9本の丸太を重機(道路修復に使用していたフロント・エンド・ローダー)の力を借りてクレークにかけ、③丸太の上に、カルボーリン(防虫剤)を塗った材木をかけ、④ワイヤー釘により丸太と材木をつなげ合わせ、⑤重機の力を借りて、橋の両側に土を盛り上げ、打ち固めた。		
特定理由	グランド・ケープ・マウント州知事、テウォー県・ポパ県知事より本道路の修復の依頼を受けたため。		
⑤直接事業費	執行経費: 79,405 円(工事道具等共通経費除く。)		
⑥工期	6月11日—6月13日(3日間)		
橋 2(ポパ県)	Majima Creek #2	25,538 人	根拠: UNHCR の調査結果による
①施設概要	雨水による洪水を制御し、車両や住民の通行を容易にするため。		
②損壊状況	スチール製カルバートが損壊し、その上にかかっていた丸太橋が雨季の雨で流された。		
③損壊による影響	カルバートの損壊により排水ができず、またその上にかかっていた丸太橋が雨季の雨で流され、雨季には付近が水浸しになり、車両や住民の通行に支障をきたしていた。		
④対象修復等内容	①損壊したスチール製カルバートを重機(道路修復に使用していたフロント・エンド・ローダー)により取り除き、②橋1で使用した丸太より長い、9本の丸太を重機(道路修復に使用していたフロント・エンド・ローダー)の力を借りてクレークにかけ、③丸太の上に、カルボーリン(防虫剤)を塗った材木をかけ、④ワイヤー釘により丸太と材木をつなげ合わせ、⑤重機の力を借りて、橋の両側に土を盛り上げ、打ち固めた。		
特定理由	グランド・ケープ・マウント州知事、テウォー県・ポパ県知事より本道路の修復の依頼を受けたため。		
⑤直接事業費	執行経費: 117,572 円(工事道具等共通経費除く。)		
⑥工期	6月19日—6月22日(4日間)		
橋 3(テウォー県)	Jenneh Wonde - Kongo 間	25,538 人	根拠: UNHCR の調査結果による
①施設概要	雨水による洪水を制御し、車両や住民の通行を容易にするため。		
②損壊状況	スチール製カルバートが損壊し、その上にかかっていた丸太橋が雨季の雨で流された。		
③損壊による影響	カルバートの損壊により排水ができず、またその上にかかっていた丸太橋が雨季の雨で流され、雨季には付近が水浸しになり、車両や住民の通行に支障をきたしていた。		
④対象修復等内容	①損壊したスチール製カルバートを重機(道路修復に使用していたフロント・エンド・ローダー)により取り除き、②橋1で使用した丸太より長い、9本の丸太を重機(道路修復に使用していたフロント・エンド・ローダー)の力を借りてクレークにかけ、③丸太の上に、カルボーリン(防虫剤)を塗った材木をかけ、④ワイヤー釘により丸太と材木をつなげ合わせ、⑤重機の力を借りて、橋の両側に土を盛り上げ、打ち固めた。		
特定理由	グランド・ケープ・マウント州知事、テウォー県・ポパ県知事より本道路の修復の依頼を受けたため。		
⑤直接事業費	執行経費: 70,378 円(工事道具等共通経費除く。)		
⑥工期	6月7日—6月9日(3日間)		
橋 4(ポパ県)	Hajila	25,538 人	根拠: UNHCR の調査結果による
①施設概要	雨水による洪水を制御し、車両や住民の通行を容易にするため。		
②損壊状況	丸太橋が損壊していた。		

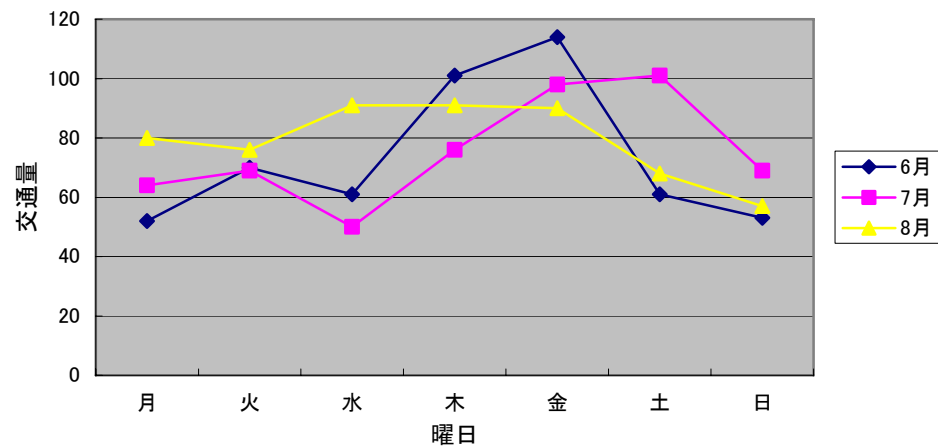
③損壊による影響	丸太橋が損壊していたため、車両や住民の通行に支障をきたしていた。		
④対象修復等内容	①損壊した丸太を作業員が取り除き、②9本の丸太を作業員がクレークにかけ、③丸太の上に、カルボーリン(防虫剤)を塗った材木をかけ、④ワイヤー釘により丸太と材木をつなげ合わせた。		
特定理由	グランド・ケープ・マウント州知事、テウオー県・ポパ県知事より本道路の修復の依頼を受けたため。		
⑤直接事業費	執行経費: 87,352円(工事道具等共通経費除く。)		
⑥工期	9月1日— 9月4日(4日間)		
橋 5(テウオー県)	Gohn Town	25,538人	根拠: UNHCR の調査結果による
①施設概要	雨水による洪水を制御し、車両や住民の通行を容易にするため。		
②損壊状況	スチール製カルバートが損壊し、その上にかかっていた丸太橋が雨季の雨で流された。		
③損壊による影響	カルバートの損壊により排水ができず、またその上にかかっていた丸太橋が雨季の雨で流され、雨季には付近が水浸しになり、車両や住民の通行に支障をきたしていた。		
④対象修復等内容	①損壊したスチール製カルバートを重機(道路修復に使用していたフロント・エンド・ローダー)により取り除き、②9本の丸太を重機(道路修復に使用していたフロント・エンド・ローダー)の力を借りてクレークにかけ、③丸太の上に、カルボーリン(防虫剤)を塗った材木をかけ、④ワイヤー釘により丸太と材木をつなげ合わせ、⑤重機の力を借りて、橋の両側に土を盛り上げ、打ち固めた。		
特定理由	グランド・ケープ・マウント州知事、テウオー県・ポパ県知事より本道路の修復の依頼を受けたため。		
⑤直接事業費	執行経費: 79,457円(工事道具等共通経費除く。)		
⑥工期	7月5日— 7月7日(3日間)		
橋 6(テウオー県)	Mambo Creek	25,538人	根拠: UNHCR の調査結果による
①施設概要	雨水による洪水を制御し、車両や住民の通行を容易にするため。		
②損壊状況	スチール製カルバートが損壊し、その上にかかっていた丸太橋が雨季の雨で流された。		
③損壊による影響	カルバートの損壊により排水ができず、またその上にかかっていた丸太橋が雨季の雨で流され、雨季には付近が水浸しになり、車両や住民の通行に支障をきたしていた。		
④対象修復等内容	①損壊したスチール製カルバートを重機(道路修復に使用していたフロント・エンド・ローダー)により取り除き、②橋1よりも直径が大きく、且つ長い9本の丸太を重機(道路修復に使用していたフロント・エンド・ローダー)の力を借りてクレークにかけ、③丸太の上に、カルボーリン(防虫剤)を塗った材木をかけ、④ワイヤー釘により丸太と材木をつなげ合わせ、⑤重機の力を借りて、橋の両側に土を盛り上げ、打ち固めた。		
特定理由	グランド・ケープ・マウント州知事、テウオー県・ポパ県知事より本道路の修復の依頼を受けたため。		
⑤直接事業費	執行経費: 116,651円(工事道具等共通経費除く。)		
⑥工期	7月8日— 7月11日(4日間)		
⑦補足資料	地図5 活動行程を特定する写真(別添1-4)		
6.広報実績	<p><現地での事業実施中における広報実績></p> <p><u>JPFロゴ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 第1、2期に継続して JPF 車両・バイクへの JPF ロゴ・WV ロゴの使用 事業実施各村落における JPF ロゴ、WV ロゴ表示のサインボード設置 設置トイレ 200 基の扉に JPF ロゴ、WV ロゴ及びトイレの通し番号を表示したプレート設置 学校家具(教師用机、椅子、生徒用机・椅子、掲示板)・扉に JPF ロゴ、WV ロゴ表示のプレート設置 <p><u>報道関係</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 現地新聞(2005年5月4日付 <i>The News</i> 紙、2005年6月20日 <i>Heritage</i> 紙)掲載(別紙2-1、2-2参照) 地元ラジオ局(UNMIL ラジオ局、VARITAS 局)にて事業関連報道 2005年9月6日付 毎日新聞『リベリア再生へ正念場』(別紙2-3参照) 2005年3月10日付 Relief Web 掲載(別紙2-4参照) <p><団体WEB上での JPF 財源拠出事業の計上実績></p> <ul style="list-style-type: none"> 当団体WEB上にリベリア関連記事を3回掲載 		

7.事業成果

次の主な3つの事業成果を挙げることができる。

- (1) 帰還後の生活の根幹となる水・衛生施設の整備が挙げられる。井戸・トイレの修復・設置により、テウオー県、ポバ県の計 14,664 人の住民が安全で十分な水や衛生的な衛生施設を利用できるようになった。事業終了後、テウオー県ゴングダマの長老に聞き取りしたところ、井戸設置前に比べて下痢の件数が減少したとのことである⁶。水・衛生施設の設置と並行して、住民を対象とした井戸・トイレの衛生的な使用についての啓発トレーニング、CHT及びWATSAN委員会を対象とした保健衛生教育やWATSAN保守・管理トレーニングを実施した結果、①コミュニティが井戸の周りに動物・鶏よけの柵を作ったり、②井戸の受益者が、井戸を使用する前に髪が落ちないように頭を布で巻き、汚れたサンダルを脱いで水を汲んだり、③WATSAN委員会が井戸使用時間を設定し、それ以外の時間には井戸に鍵をかけ、井戸周辺を清潔に保つようになった⁷。また、ポバ、テウオー県のWATSAN委員、CHT21 人を対象とした事業終了時の保健衛生関係の理解度クイズ結果によると、健康と水との関連、健康とトイレの使用、環境衛生、設置・修復したトイレ・井戸の持続的な利用についての基礎的な知識をことが分かった。本事業で使用している家族用トイレのスペックと住民参加のアプローチが、当国のWATSAN調整委員会より成功例として評価され、設置後の管理など持続性の観点から、同委員会は今後、家族用トイレを推進していくことを決定した。
- (2) テイエニ(テウオー県)ーダンバラ(ポバ県)13 マイルの道路及び橋 6 本を修復したことにより、ポバ県、テウオー県の

図2: 商用車交通量調査 (2005年6月～8月)



25,538 人や車両のアクセスを確保した。ティエニ、ダンバラ間の車両の所要時間が修復前には約 1 時間 30 分であったが、35 分まで短縮し、また車両数の増加にも繋がった。修復前には、四輪駆動車以外の車両はポバ県や金曜市の立つジェネ・ウンデへのアクセスは不可能であり、商用車両(四輪駆動車)は木、金曜日以外にはほとんど見られなかった⁸。2005 年 6 月から 8 月末に実施した車両通行量調査によると、木、金曜日の商用車通行量が目立つものの、ほぼ一定した交通量が見られた(図 2 参照)。雨季終了後には通行量のさらなる増加が予想される。また、モンロビア市内から金曜市の立つ、ジェネ・ウンデ間の商用車両の料金が修復前の 600 リバティ(リベリア・ドル、約 11 米ドル)から 25%値下がりし、450 リバティ(約 8 米ドル)となった。さらに、修復前は、救急車がポバ県へアクセスすることができなかったが、道路修復により、ポバ県よりグランド・ケープ・マウント州シンジェのヘルス・センターやモンロビア市内の病院へ 6 人⁹を搬送することができた。

- (3) 本事業では CWT26 人が参加し、事業実施(対象コミュニティや受益者選定、井戸、トイレの設置・修復、道路・橋・小学校の修復、事業のモニタリング)にあたり、住民との橋渡し役を務めた。井戸やトイレの修復・設置、道路・橋・小学校の修復時の実地トレーニングを通じ、各 CWT が事業終了時には、井戸の暗渠設置、最終掘削やトイレのコンクリート製足踏み台の製作技術、道路・橋の修復技術を体得することが出来るようになり、地域全体のキャンペーン向上に役立ったと言える。特に、道路・橋の修復技術を体得した CWT や作業員は、事業終了後も自発的にポットホール修復などの道路整備を継続して行っている。

⁶ テウオー県には現在機能している診療所がないため、村での聞き取り調査による。

⁷ 事業終了後のポバ県Lein, Bombor Dassalamu, Jawajei, Valleywayにおける使用状況確認調査による。

⁸ 商用車の運転手やコミュニティの住民への聞き取り調査による。

⁹ 6 月 5 人、7 月 1 人の計(WVL Ambulance Project記録による)。

8.事業評価	<p>当事業の評価として、以下の3点が挙げられる。</p> <p>第一に、本事業は、第2期に引き続き、受益者の自助努力とプロジェクト・スタッフのセンシタイゼーションを柱として推進することとなった。他のNGOが下請けに建設をすべて任せたり、労働力を提供したコミュニティに現金を支払うことを約束したり、住民が近隣国の難民キャンプや国内避難民キャンプより帰還したばかりで外部からの支援に慣れていないため、小学校の修復を行なったポバローなど一部のコミュニティの自助努力意識が低く、困難な面もあった。しかしながら、故郷の再建と復興に向けて地域住民が心身共に自立をし、事業に対するオーナーシップを持つ上で、本事業の採用した戦略は受益者やコミュニティに大きく貢献したといえる。特に、第2期まで住民参加や自助努力への理解が薄かったポバロー県ボエサン¹⁰では、第3期に住民参加の重要性を再認識し、村をあげて小学校の修復にあたった。また、テウオー県のゴンダマでは、トイレ(第2期で設置)や井戸(第3期で設置)の管理を村長以下、村全体で行なうなど、支援対象地域のコミュニティの意識に変化が見られた。</p> <p>第二に、CWTのメンバーはトイレ、井戸建設、学校、道路・橋修復の中心的な役割を果たし、今後のコミュニティ再建には欠かせない人材に育った。本事業を通じて、自発性のある前向きな人材を育成できたことは、受益コミュニティの再建・開発にとって一助となるであろう。更に、井戸・トイレの修復や設置、学校、道路・橋修復の過程でコミュニティの参画を重視することにより、事業のアウトプットである建造物だけでなく、設置や修復というプロセスを通して、シエラレオネや国内避難民キャンプからの帰還民、元兵士、内戦中も近隣諸国や国内避難民キャンプに逃れずに地元に残った地元民などの住民同士の協力やつながりの強化など真の意味でのコミュニティ復興にも貢献したと考える。</p> <p>第三に、本事業はグレート・ケープ・マウント州の 2 県で実施したが、当団体の調査では、少なくとも当該地域において3,955 人の帰還民を確認した。井戸、トイレを設置・修復して安全で十分な水や衛生的な衛生施設を提供することにより、帰還民が水疾患や汚物混入が原因の疾患に罹患するという不安を取り除いた。更に、ティエニ、ダンバラ間の道路を修復することにより、金曜市の立つジェネ・ウンデへの交通量が増え、且つポバロー県へ救急車、シエラレオネからの帰還民を乗せた国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) のトラックや人道支援がアクセス可能になったことで、帰還民が故郷で安心して再定住をする一助となったといえる。</p>																														
9.事業終了時整理状況	※ 以下の項目を含め。																														
固定資産整理方針	<p>購入固定資産の状況</p> <p>・固定資産…リベリア第4期事業で活用中。</p>																														
資器材過不足状況	<p>※ 購入資器材—執行資器材の関係で未執行分がある場合、その顛末を記載。</p> <p>①掘削した井戸の深さが場所により異なったための使用暗渠数などの変更(井戸暗渠等)、②激しい雨が続いたため、道路修復用に設置したカルバートを補強するための wind wall(セメント、砂、砂利)を設置することができなかった。そのため、井戸設置・修復用、道路修復用資器材に未執行分が生じた。そのため、未執行分については、自己財源に付け替えて処理することとした。</p>																														
執行体制状況	<p>※当初承認人役との関係で整理</p> <p>※詳細設定状況について、別紙「個別職務区分別人役措置状況表」を添付。</p>																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>承認人役計</th> <th>執行人役</th> <th colspan="2">増 減(事由含む)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本部人役(東京)</td> <td>3 人役</td> <td>3 人役</td> <td>0 人役</td> <td></td> </tr> <tr> <td>現地人役計</td> <td>75 人役</td> <td>80 人役</td> <td>5 人役増</td> <td></td> </tr> <tr> <td>国際スタッフ人役</td> <td>1 人役</td> <td>1 人役</td> <td>0 人役</td> <td></td> </tr> <tr> <td>現地雇用人役</td> <td>74 人役</td> <td>79 人役</td> <td>5 人役増</td> <td>期間中事業に関わった CWT の数が当初の予測に比して 6 人増加、フィールド・モニターIの数が 1 人減ったため。</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>78 人役</td> <td>83 人役</td> <td>5 人役増</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		承認人役計	執行人役	増 減(事由含む)		本部人役(東京)	3 人役	3 人役	0 人役		現地人役計	75 人役	80 人役	5 人役増		国際スタッフ人役	1 人役	1 人役	0 人役		現地雇用人役	74 人役	79 人役	5 人役増	期間中事業に関わった CWT の数が当初の予測に比して 6 人増加、フィールド・モニターIの数が 1 人減ったため。	合計	78 人役	83 人役	5 人役増		
	承認人役計	執行人役	増 減(事由含む)																												
本部人役(東京)	3 人役	3 人役	0 人役																												
現地人役計	75 人役	80 人役	5 人役増																												
国際スタッフ人役	1 人役	1 人役	0 人役																												
現地雇用人役	74 人役	79 人役	5 人役増	期間中事業に関わった CWT の数が当初の予測に比して 6 人増加、フィールド・モニターIの数が 1 人減ったため。																											
合計	78 人役	83 人役	5 人役増																												
<p>上記の通り申請します。</p> <p>日 付:2005 年 3 月 9 日</p> <p>団体名:特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン</p> <p>申請責任者:理事長 峯野龍弘</p>																															

¹⁰ 第2期では、井戸、公共施設用トイレ(ボエサン小学校)、拡大家族用トイレ、家族用トイレを設置した。